

# KTK ひゅうまん 京都

No. 543 2022年2月号

編集/京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内  
編集発行責任者/池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P1 左大文字 つどめ
- P2 常任委員会から 池添 素
- P3 今こそ「オオカミ」を! 山上周一
- P4 血の染みついたバトン 中村 暁
- P5 人生の伴奏者 井上吉郎
- P6 ジョニーの炸裂日記 ライスチョウジョナ
- P7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P8 2+2=詩 富士一文
- P9 障害のある人の権利を守る北障連から 濱中 博
- P10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P11 新年のご挨拶 松本 美津男
- P12 2020年からのコロナ禍に学んだこと 大西里江

## 左大文字

「ケアラー支援条例」を京都に!

京都に「ケアラー支援条例」を、と願って識者の意見を聞いて回っている▲2020年3月に制定された「埼玉県ケアラー支援条例」への反響は凄まじく、その余波は収まるどころか、さらに熱を帯びて今も続いている。すでに北海道栗山町・三重県名張市・岡山県総社市・同備前市では条例が実現し、北海道・栃木県・茨城県・山梨県では条例制定の具体的な動きが始まっている▲特に注目された「ヤングケアラー」によって、高齢者介護だけではなく、精神疾患をかかえる家族へのケア、しょうがいのあるきょうだいへのケア、不登校やひきこもる人と家族へのケアなど、実に多様なケアが家族の中にあることが明らかになった▲かつて岩手県の小さな村(旧沢内村)から始まった老人医療費無料制度(1960年)が、各自自治体に広がりやがて全国一律の法律として整備(1973年)されたことを彷彿とさせる勢いだ。長い間、社会のケアの含み資産とみなされ、ケアを担うことが当然視されてきたケアラーが、ようやく社会的支援の舞台へと上ろうとしている▲「全てのケアラーが健康で文化的な生活を営むことができる社会を実現する」―これは埼玉県ケアラー支援条例が謳う目的だが、すべてのケアラーに届けたいフレーズだ▲ケアラー当事者や支援者のグループが数多く熱心に活動している京都だ。当事者の声がしっかり届く条例化運動をめざしたい。請う! 諸兄弟姉のご参加を!

つどめ



「鬼も内」  
渡辺あひる

# 常任委員会から

〈4月10日は〉

コロナ禍の真最中に京都府知事選挙があります。市民の暮らしを守ることを公約に掲げる候補者が決まらずヤキモキしたのは私だけではなかったと思います。2月10日に京都総評議長梶川憲さんが立候補を表明。無所属で選挙戦を闘われるが市民が応援団。現職知事は2期目。コロナ対策は大阪や兵庫を見て、右にならえの京都の立ち位置。なんで大阪？ といういろいろ疑問の現職知事。北陸新幹線の京都延伸や植物園変質や巨大アリーナ計画は、ノーサンキュウ、府民のお金を勝手に使おうとしている現職。いまこそ、京都府の北から南まで、東から西まで、子どもからお年寄りまで、誰も困らない自治体を作ることが知事

補者こそが府民の味方。うれし  
い結果の4月10日を迎えたい。

〈入院しました〉

2月号をお読みになったみなさん、何かお気づきになったことではないでしょうか。昨年から連載を続けていただいている沖田友子さんの原稿があります。毎回、息子さんの暮らしの場のことをリアルに描いてくださっているのですが、今回はかないませんでした。息子さんのグループホームで感染が拡大し、自宅に待機中に発症。そのままたま親子で入院となり、その後に沖田さんも発症し、現在は回復中。障害のある子どもがいる家庭でコロナ感染となったとき、たぐさんの想定外が起ること、沖田さんの実体験から教えてもらいたいと思います

が、それは3月号に譲ります。

コロナ感染はいつ誰の上に起こっても不思議ではない感染状況で、障害のある方も例外ではありませぬ。知らない環境での入院、見通しのない毎日では、不安がいっぱいだったと思えます。そこに付き合う保護者の苦勞もたいていではないと思えますが、ヘルパーの支援も得られない中では、引き受けるしかありません。やはり、家族が全面的な受け皿になってしまいう現実を改めて突き付けられました。それでも、入院できてよかったと心から思います。沖田さん自身も発症し高熱の中の子どもの介護はしんどかったとおもいます。無事に二人とも退院出来るように！ 早くコロナ禍が収束してほしい気持ちはだれも同じです。なかなか見通せない中、どう乗り越えるかの工夫と協力と支援が必要です。

〈日払いはアカン〉

コロナ禍の影響をもう一つ。児童発達支援事業所を運営していますが、子どもたちに感染拡大がひどいことになっていきます。保育園や幼稚園の休園が多くなり、小学校の学級閉鎖も増え、結果、療育に來れなくなった子どもたちが増え続けています。子どもが来ないと報酬がなくなります。運営が厳しくなると、雇用が厳しくなり、持続的な療育の維持が難しくなり、療育の質の低下につながります。災害や感染など、何が起るかかわからない状況で、子どもたちの発達保障の仕組みは日払いではなく、個別給付ではなく、契約制度ではなく、しっかりと子どもの育ちを支える仕組み、今一度考え直す時期だと切実に思います。

池添素（京障連事務局長）

# 今こそ「オオカミ」を!

山上周一(ジャーナリスト)

俳人金子兜太は、1919年 げに」と。

9月23日、埼玉の秩父で生まれ  
ました。

〈日の夕べ天空を去る—

狐かな〉

兜太は書いています。「秩父事件の中心地帯である西谷は、荒川の支流赤平川を眼下に、空に向かって開けている。谷間から山頂近くまで点在する家は天空と向きあっている。夕暮れ、陽のひかりの残るその空を一頭の狐がはるばるとび去ってゆくのが見えたのだ。いやそう見えたのかも知れない。急な山肌に暮らす人たちに挨拶するかのように。謎めいて、妙に人懐し

〈おおかみに蛍が一つ付いていた〉

2014年4月、椋(むく)神社に兜太の句碑が建立されました。兜太は挨拶で、出征のさい、椋神社のお守りを母上が干人針に縫い込み、持たせてくれた。多くの死者がだが守られ生きて帰ることが出来た。椋神社のご恩を感じていると言った。熊谷を拠点にし秩父を産土(うぶすな)として通い、土への親しみからこの句ができたと言います。兜太は書いています。「西神山は龍神山とも言われ、オオカミは龍神と言ったが絶え

た。秩父を思うとき、オオカミが出てきてその時光を感じた。光の正体は蛍だ。それはトラック島での戦争体験から来ている。気持ちを鎮めていたら光の中に連山が見え空想が浮かびこの句になった」と。

〈白梅や孝子無心の旅に住

む〉の句で俳人生活をスタートさせた兜太は多くの句を残しましたが、好きな句は、〈曼殊沙華どれも腹出し秩父の子〉であり、〈水脈の果て炎天の墓碑を置いて去る〉であり〈左義長や武器という武器焼いてしまえ〉です。

〈沢蟹(がに)・毛蟹喰(く)い暗らみ立つ困民史〉

自由民権運動の中、秩父の農民たちは困民党を組織、昨夏、僕は秩父事件の現場に立ちました。〈語り継ぐ白狼(はくろう)のことわれら老いて〉の解釈の一つに、秩父に多く生息していたという伝説もあるオオカミが困民党を導いたというものがあります。句が言う「白狼」は兜太自身ではないか、という者がいます。

兜太は書き残しています。「秩父という「産土」を思うとき、必ずオオカミが現れる。命の原始さながらにじっと土に静かに立つ」と。



# 血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

## ⑭ちゃんと説明してくれよ

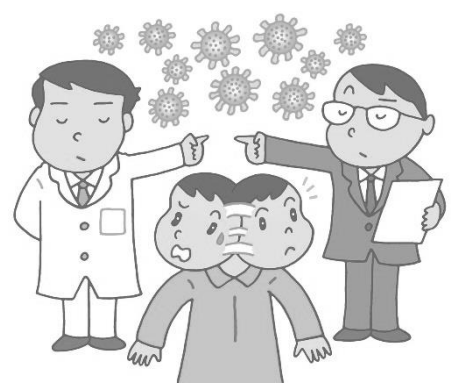
2月7日現在、京都府では新型コロナウイルス感染症により自宅療養中の人が2万2000人を超える。亡くなる人も増えている。病床使用率も府全域で6割を超える。生命と健康の危機である。間違いない。だが第6波はこれまで以上に生活の危機も引き起こしている。何より子どもたちの感染拡大が著しい。学校は学級閉鎖・休校が相次ぐ。保育園も休園で子どもは行き場を失い、保護者も仕事にいけない。家族全員が陽性のケースも目立つ。たとえ軽症でも、日常生活を営む最低限の基盤が壊れてしまう。

さらに厄介なことに保健所がひっ迫しすぎて、「濃厚接触者」特定が出来なくなっている。家

族や知人が陽性になっても、自分

分が濃厚接触なのかわからず、どう行動して良いかわからない。保健所に電話をしても話中でつながらない。そんな声が聞こえてくる。

そもそも今、京都市は濃厚接触者特定自体を事業者・個人に委ねている。たとえば従業員が検査を受けて陽性となったら、事業所自らが調査して、濃厚接触者のリストをつくる。そして保健所に届けて検査を受ける（そして検査もなかなか受けられない）。しかし、「積極的疫学調査」による濃厚接触者特定はどうか考えても公務でなされるべきものだ。国立感染症研究所は、その意義を次のように書いています。「原則的には後方視的にその感染源を推定するとともに、



前方視的に濃厚接触者の行動制限等により封じ込めを図る」

ii。であれば専門機関である保健所が科学的に判定しなければ、感染源の推定も封じ込めもあつたものではない。専門機関ではない民間人が科学的な判断をできるだろうか。行動制限を伴う濃厚接触者特定を民間が行うことの「結果責任」（嫌いな言葉だが）は誰が負うのか。しかし出来ないものではない。保健所はものすごくがんばっているし、職員は命を削って仕事をしている。でも科学的な

行政が出来なくなっているのが現実である。そして市民は混乱の渦中に放置されている。

ちゃんと説明してくれよ、と思う。自治体の首長は何のためにいるのか。行政職員が血みどろでたたかっているのに、何やってんの？ 首長は専門家の力も借りて、市民に対して「今、何がどうなっているのか」を科学的に説明すべきだ。行政として何が出来なくなっているか、だから市民に対しては何をしてほしいのかも。京都府・市の首長は一貫してそれやらない。何でやらないのかわからない。でも説明すらできないのなら、首長の資格はない。

i 府は受入可能ベッドを「872床」と発表している。確証は得られていないが、その数字はかなり怪しいと筆者は推測している。

ii 国立感染症研究所 感染症疫学センター・2021年1月8日版

# 人生の伴走者 ②身の周り

本紙編集長 井上吉郎

## ・店の名前

Tricolore (トリコロール) が店の名前だろう。フランス語でもイタリア語でも、それは三色で構成された旗を意味する。

大声で注文を取らないし、客も大声ではしゃべらない。そして想像するに、喫茶の空間はそれほどは広くないだろう。住宅街の喫茶空間。

トリコロールといった時、最も有名なのはフランス国旗で、自由、平等、博愛を表す。人通りが多くない道端、店はこの三角看板が置いてある奥、新しく建った民家で、店の前の道はいわば路地。この三角看板が唯一のガイド、宣伝媒体だ。

開店は午前10時、閉店は午後6時、8時間の開店時間が住宅街に似合う。そして、金曜日、土曜日、日曜日の週3日が営業日。メニューを見るとそこにはアイスのものいくつか。熱いものが苦手(ストローがたよりの僕なので)にピッタリ。店の前に階段があるのが難点、他人の肩を借りて入ってみよう。そう思わせた道端の小さな「看板宣伝」だった。

## ・リハビリ

たおやかな時間がゆっくりと過ぎるのだろう。そこに居るだけで緊張が解ける空間。店の人は

お抹茶リハビリ。僕にとって、お干菓子はお抹茶とともにあ

る。毎朝、僕はお抹茶をいただくが、その場合の「連れ」はお干菓子。甘いものをいただいて、口の中を「甘さ」で満たす。僕は、口の中を満たす「甘さ」が好きだ。条件が合えば、バナナの「甘さ」で

正面からいただくとき、喉ぼとけが動く。喉ぼとけの動きが弱い僕にとって、「ごっくん力」を強くするためのリハビリが欠かせない。

千利休ならぬ「万利休」で、「裏千家」でも「表千家」でもなく、「中千家」の家元、「我流」の僕は、今朝もお抹茶をいただく。

島根県松江市出身の母は、戦後を、家事と子育て(子どもが4人)に追いまくられて生活したが、「お抹茶」をほぼ毎日点ててくれた。その時の「甘味」は砂糖で、1週間に1回だけが、家に売りに来る「中村さんの和菓子」だった。長い中断があったが「お抹茶のある暮らし」が、「お干菓子」とともに蘇った。「暮らしの中の憲法」ならぬ「暮らしの中のお抹茶」だ。



# ジョニーの炸裂日記2

ライスチヨウジョナ(イラストレーター)

私は4年前までスポーツが大嫌いだ。それはもう嫌悪感を抱くほど、とにかく嫌いだった。原因は自分が受けてきた学校教育にあると思っている。学校での体育の授業は様々なスポーツをやるが、そのほぼ全てが見学で、まともに参加させてもらったことは無かった。言ってみれば、障害があるから見学で当たり前という古い考え方なのだろう。今考えると、他の生徒と同じことができなくても、試合の点数を付ける係だったり、審判の係だったり、はたまた他の役割だったり、できることは色々あったはずだ。特に中学の頃は最悪で、体育教師は3年間ほぼ一度も私に対して声を掛けたことすらなく、完全にほったらかし状態。まるで自分の存在を無いものとして扱われている

嫌いだ。それはもう嫌悪感を抱くほど、とにかく嫌いだった。原因は自分が受けてきた学校教育にあると思っている。学校での体育の授業は様々なスポーツをやるが、そのほぼ全てが見学で、まともに参加させてもらったことは無かった。言ってみれば、障害があるから見学で当たり前という古い考え方なのだろう。今考えると、他の生徒と同じことができなくても、試合の点数を付ける係だったり、審判の係だったり、はたまた他の役割だったり、できることは色々あったはずだ。特に中学の頃は最悪で、体育教師は3年間ほぼ一度も私に対して声を掛けたことすらなく、完全にほったらかし状態。まるで自分の存在を無いものとして扱われている



気が持たなかった。大人になった今だからこそ当時のことに対し色々思うようになったが、先生から「君は見学しなさい」と言われれば「はい」となってしまいう子供はやはり多いだろう。結果的に体育の成績は5段階評価（最高が5）で万年「2」。なぜ「1」ではなく「2」なのか？しっかりと自分に役割を与えてくれて、その頑張りや出来で評価した上で「2」ならまだましでも、こんなお情けの「2」なんて全くもっていらぬ。所詮、できる人は評価され、できない人は評価されないのだから、人は評価されなくてく〇くらえ！とスポーツなんてく〇くらえ！とずっと思ってきたのである。しかし転機が訪れる。4年前、平昌五輪のカーリングを観たことがきっかけだった。はじめは仕事の漫画を描きながら、パソコンで五輪のライブ配信を流していただけだった。スポーツは嫌いだ。だが、試合の歓声を聞きながら仕事すると、なんとなく仕事がはかどったというだけの理由である。またまたカーリングがやっていて、「なんだこのスポーツ？」と思った。ただただ自分の石を投げて相手の石を外に出しているだけのように見えるが、どうやらそうでもないらしい。観ているうちに、「どうしたら点数になるのか？」「なぜここに石を投げたのか？」など、色々な謎が解けていき、実況も無かったので完全に独学のような感じでルールや戦術を覚えていった。気づくと、仕事そっちのけで完全にカーリング

にどハマリしていた。動き回るスポーツよりも、頭を使い、一緒になって考えながら観ることのできるスポーツが自分に合っていたようだ(動き回るスポーツも頭を使わないわけではないが)。スポーツに対して剥き出しの嫌悪感を抱いていた自分にとって、カーリングを好きになったことはとてもなく衝撃的な体験だった。完全に価値観をひっくり返されたのである。それ以来スポーツに対する嫌悪感は消えてしまい、それだけでなく他のスポーツも楽しんで観ることができるようになった。

学校での経験は今でも疑問に思っているし、世の中のあのような教育の仕方は絶対に変わらないといけないと思っている。全国の子供達にとって、嫌いなものが一つ増える学校生活ではなく、好きなものが一つ増える人生であることを切に願う。

# つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

## 場面②⑥ 不意の呼びかけに

驚く

あらぐさには、現在61名の方が通所されています。職員は全員の利用者さんを知っているわけですが、関わり程度のよって利用者さんはこちらのことをあまり知らない場合があります。働き始めた頃はこちらが話しかけても素通りで、自分は視界に入っていないのだとよく感じていました。

ある日、事務室を出たところで前にいた彼から「なー」の声。思わず後ろを振り返りましたが、誰もいません。自分に話しかけられているのかどうか分からず、一瞬人違いなのかとも思いました。今度は目が合った状態で、「再び「なー」。勢いよく週末の外出について話していたので、「そっか、出かけるんですね」と

返しました。普段こちらから話しかけると横を向かれることが多いので、よっぽど誰かに伝えたかったのかもしれない。

直後に、そばにいた担当職員さんから「中山さんのこと、呼んでましたね」と言われて、「やっぱり呼ばれてたんや」と分かりました。彼とは15年ほど前に、さをり織りの作業室で一緒だったことがあります。その時は、はた織りの音から「とんとん」と呼ばれていました。今回は「なー」で、中山の「なー」だったのでしょいか。夕方、帰りの送迎車の窓越しに目が合ったので手を振ったところ、彼はこちらに気づきつつ横を向いていました。

別の日、これまで直接関わったことがない方の活動見学に行きました。おやつ作りで出来上がった焼きそばを食べ、おかわりがしたかった彼。「〇〇さん、ほしい」と聞こえて周りには自分しかいなかったの状態で、状況的に「うちのことかな?」と思つて焼きそばを渡しました。そ

の後「中山さん、ほしい」と、今度のはつきり呼ばれたことが分かりました。初めて彼に呼びかけられた瞬間の驚きと発見で気持ちが高ぶったのか、思わず量が多めのおかわり2回目となりました。彼は以前、詩的な言葉を書き連ねていた時期がありました。

**オードリー・ラーマー丸中さん。  
中山さん シオノギ丸山さん。**

食べものや人の名前、いろいろな言葉がリズムよく並んでいる一節です（ちなみに、丸山さんは当時の担当職員で、丸中さんは身近にはいません）。この「中山さん」が自分かどうかは分かりませんが、直接の関わりはなくても意識してもらっていたのかなあと、今回の出来事で思いました。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）

# 2+2=詩

## 「影の空想」

地面に落ちる影の形。おかしくて奇妙な影の形。  
気を取られて見上げれば、コンクリビルの屋上に、  
影に違わぬ複雑な構造のよく分からない金属製の構造物が  
据えられていた。

さてさてあれはなんなのだろうか。全く想像がつかない。  
それでもそれでも想像してみる。

ありえないけど。ありえるわけはないけれど。  
もしかして。もしかしたら。

スイッチ一つであの構造物は形を変えて、  
宇宙の果てまで届く光を放つのもかもしれない。

それを合図になにか、  
なにか。何か大きな変化が起きるのではないか。  
何かが大きく変わるのではないか。

息苦しい現実が粉微塵に砕け散ってはくれないか。  
妄想から覚めて気がつけば、  
太陽は傾き地面に落ちた影は大きく形を変えていて  
そして構造物は微動だにしないまま  
ビルの上でじっとしていた

## 「寒さとの戦い」

寒い日冬の日、  
窓からドアからあちらこちらから、  
寒気が部屋の中までやってくる。  
容赦なく区別なく一切合切を冬で飲み込んでいく。

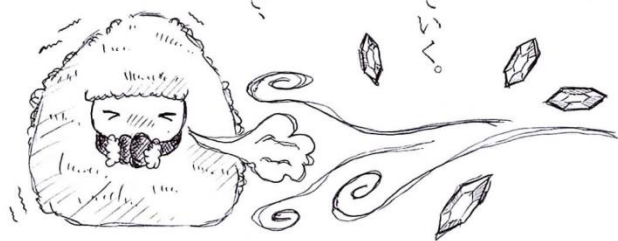
冬將軍の攻撃だ！

どんなに冬服を重ね着しても、  
凍てつく寒さから身を守る切るとは困難で、  
僕らはブルブルと震えながら  
耐えることしかできない。

やがて春という援軍が来る日まで、  
この戦いは続くのだ。

## 「赤い靴」

車の屋根の上でさ、赤い靴が日向ぼっこ。  
お父さんに乗せてもらったのかな。  
それとも自分で飛び乗ったのかしら。  
わからないけど赤い靴、  
靴は顔はないけれど、  
きつと笑ってうたた寝してる。





## 障害のある人の 権利を守る 北障連から 濱中博

各市町の福祉計画の実施にあたって、自立支援議会などの開催や運用について違いが生まれています。この京都北部地域の中で受けるサービスに差異が生まれないように丹後福祉圏域を統括する峰山保健所（京都府）に要望書を提出することは重要で

### 2021年度北障連統一要望

本年3月「第6期京都府障害福祉計画・第2期京都府障害児福祉計画」が策定されましたが、この計画の実施にあたっては私たち当事者団体の願いを丁寧にくみ取っていただき、より充実したものとるように宜しく願います。

#### 1. 福祉行政について

- ・丹後保健福祉圏域内の自立支援協議会を実行性のあるものとして下さい。
- ・福祉計画に則り、障害を持つ当事者丹後福祉圏域や、その保護者の要望・意見を反映させてください。

#### 2. 障害者の暮らしについて

・障害種別に関わりなく障害者や保護者が高齢化する中、障害のある人たちの暮らしの問題は年々深刻になっていきます。グループホームの建設をはじめ居住支援を拡大充実させてください。

・ヘルパーサービスが必要な時に安心して利用できるように充実させてください。そのためにヘルパーの人材育成と合わせ処遇改善も積極的に進めてください。

#### 3. 重度心身障害児・者の暮らしや医療について

・医療的ケアを必要とする人も含め、重度心身障害児・者の保護者の高齢化は深刻な中、『花ノ木医療センター』のような施設をこの京都北部にも！の願いは、切実なものとなっています。とりあえず、現在空床型となっている医療型ショートステイを、いつでも、必要なだけ、利用できるように充実・拡大をはかってください。

・現在医療的ケアを必要としている人も入れるグループホームの計画が進んでいますが、安心して入所できるように、夜間の看護師の配置、または訪問看護師の派遣制度の確立といった、医療面での体制の確立をはじめ職員員の体制を手厚くするための支援をお願いします。

・医療的ケアを必要としている支援学校生の通学支援を、保護者の負担をなくし行政の責任で行ってください。

※ 以上3点については、本年9月18日より「医療的ケア児及びその家族

に対する支援に関する法律」が施行された点をふまえて、より積極的に実現に向けたお力添えをお願いします。

#### 4. 障害児の施策について

・障害を持つ乳幼児の早期発見・早期療育・早期治療のための支援（補助）を充実させてください。

・小中高生の放課後等デイサービス、日中一時支援事業を充実させて下さい。

・緊急時のショートステイができるよう施策の充実を図ってください。

・療育施設における3歳未満の児童や学童の利用料を無償化、減額するよう、国に働きかけて下さい。

#### 5. 障害者の就労や地域生活について

・丹後保健福祉圏域での就労は大変難しく、とりわけ障害のある生徒、青年にとつての就労には大きな課題を抱えています。障害者雇用を理解のある企業・事業所開拓に官民挙げて取り組んでください。

・引きこもりなどの青年・成人の実態把握をしてください。またそれを踏まえて、社会参加ができる種々の支援体制を構築してください。

#### 6. 障害児・者、及び 障害児・者団体への援助・支援施策について

・障害を持った青年・成人が豊かな地域生活を送るため、社会教育へのより一層の支援と充実を図ってください。

・後期中等教育修了後、社会生活へつなげていくための教育の場に対する理解と支援を厚くしてください。特に自立訓練事業の支援とその充実を図ってください。本人や保護者の希望に添って、市町村として3年目の措置延長を図ってください。

・各市町を守る親の会や、手をつなぐ親の会等の活動に対して支援を充実させてください。

#### 7. 災害時の対応について

・災害時の緊急避難や支援体制について、支援が必要な方に応じた具体的な計画作成と安心して過ごせる福祉避難所の確保をお願いします。各市町の行政への体制作りの支援をしてください。

#### 8. コロナ感染に対する支援について

・新型コロナウイルス感染症の流行拡大に関わって、丹後福祉圏域で感染が広がるような状況になった場合には、事業所等での支援が安心して継続して受けられるよう、PCR検査等について障害のある人や家族、支援者に対して無償での定期的な実施や、感染が明らかになった場合には差別や偏見から守る対応などの支援をお願いします。

「コロナ禍で遅れていましたが、「2021年度 要望書」をようやく2月に提出することが出来ました。22年度福祉行政の前進に繋がるようにとの願いを込めて・・・次回は各市町について報告します。」

# 365歩のマーチ



## 23 ゆいちゃんも過す長い時間

きょうだいの小学校、保育園でコロナ陽性者が出たので…というこゝで、児童発達支援センターに通う子どもたちの欠席が続き、同僚も同様に休むことが多くなってきました。年明けにゆいちゃんも通う保育園でもコロナ陽性者が出たため、ゆいちゃんも濃厚接触者ではありませんでしたが1週間ちよつと保育園がお休み、家で過すことになりました。ようやく保育園に通えるようになった次の週、またコロナ陽性者が出て1週間保育園が休園になりました。保育園の先生は電話で「すみません」とおっしゃっていました。が、これは誰も悪いわけではありません。父と母は、仕事の予定にらめこし、午前中は父

が出勤し、大急ぎで帰ってきて母が出勤…という日が続きました。

年末ごろから、園でも紙おむつがはずれて「お兄ちゃんパンツ」で過し始めていたのですが、家ではなかなかトイレしが進まない(親がめんぐくめんぐく)日々でした。保育園の休み期間中、ゆいちゃんも自分から「おにいパンツ(お兄ちゃんパンツ)、はく！」と意欲満々だったのでお兄ちゃんパンツで過しました。2時間「ごっこ」「トイレ行く」とゆいちゃん。トイレの電気をつけようとする父に「ゆいちゃんがでんきー」と主張し、抱っこしてもらって自分で電気をつけます。その後トイレのフタを開けて、よじ登って便座に座り、おしっこをしてから水をじゃー…。便座のフタに登っ

て流れる水で手を洗うところまでやって満足していました。いつもなら、時間がないので親が電気をぱっとつけてしまったり、便座のフタをわざわざ開け閉めするのも待てないのですが、ほんとにはこんなゆったりした時間のなかで待てればいいのにな…、子どもに付き合っつてこついうことなんだなあと思いました。仕事のやりくりは大変でしたが、ゆいちゃんとはゆつくりとした時間を過すことができることも、普段働く時間が長いと精神的にも体力的にも余裕がなくなるんだなあとしみじみと考えさせられました。

\*

だ、こつじみたい」ときりがないほどです。ある日、リビングのおもちゃを寝室にいそいそと運んでいました。何をしているのかなあとこぼろく見ていると、おもちゃを置いてある棚や絵本まで運び出します。寝室を見てみると布団の上はおもちゃと絵本の山。ゆいちゃんがほいほいとおもちゃを投げこんでいます。「ゆいちゃん、何してんの?」「と聞くと「ごっこ」「ごっこ」「ごっこ」「ごっこ」「ごっこ」が工事?なんでこんなするの?」「ゆいちゃん、ごっこしたいのよ」とその顔は真剣そのものでした。いろんなものにあこがれて、やるのがダイナミックになってきました。満足そうにゆいちゃんとはうらはらに、仕事から帰ってきた母は寝室に入るなり悲鳴をあげていました。

安藤 史郎(あかひつねの園)

壁工事を行っており、外に出ると大好きなクレーン車や工事のお兄さんにいつでも出会える環境になつてうれしそうにゆいちゃん。クレーンで釣りあげられる鉄骨を不思議そうにじーっと見つめ、そろそろ帰るつか」とついでに「ま

# 知っ得情報

## 手帳なくても障害者控除

代表委員 松本 美津男

税の申告で障害者控除は障害者手帳を持っていない人でも、認められるケースがあります。

65歳以上の人で、障害者控除の対象者であるとの認定書を、市町村長（福祉事務所長）からもらえれば、障害者控除が認められます。

また、年齢に関係なく、「その年の12月31日において引き続き6か月以上にわたって身体の障害により寝たきりの状態で、複雑な介護を必要とする人」や「精神上の障害により事理を弁識する能力を欠く常況にある人」は特別障害者控除を認められます。この場合、決まった様式はありませんので利用している福祉施策や年金、手当に関する書類等を見せるのも一つの方法でしょう。

手帳無しで障害者控除を受けるには、少し時間と手間がかかりますが、所得税と住民税の軽減になりますから、該当しそうな人は、ぜひ申告されるようおすすめします。

### 〈問い合わせ先〉

最寄りの税務署



## あなたもぜひ 仲間に

サロン・サークル・地域活動展開中  
生活支援スタッフ(資格不要)募集中  
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう  
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に  
京都市北区紫野東野町1-5  
電話075-432-3636

## 命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

### 働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



## 京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: [info@kyoto-min-iren.org](mailto:info@kyoto-min-iren.org)

ありがとうございます

年会費 竹内三紀子

(敬称略 2022.2.10)

## 2020年からのコロナ禍に学んだこと

大西里江（京障連代表委員）

ツチノコ野外倶楽部の代表は、佐々木さんという、とても頼もしい方です。毎月一回、日曜日に登山やハイキングを、夏は、カヤック等サマースポーツを、親子で楽しめるように、色々なことを考えている方です。倶楽部の活動が10年以上も続くのは、周りに活動を理解し、協力したいと思う方が沢山おられることと、いつも優しく活動を見守っておられる奥さんの理解があるからと思います。

2020年11月、私が初めて参加させてもらった時は、知恩院から伏見稻荷までのコースでした。知恩院で集合して最初に驚いたのは、参加人数の多さです。個人でされている活動で、30人を超える参加があることにビックリしました。それも、リピーターさんが多いことも知りました。そこで、私は、何をしたらいいのかと佐々木さんに尋ねたら、「おかあさん達と話してくれればいい」と。それでいいのかと疑問に思いつつ、何人かの親御さんとお話する。

「前は全く歩かなかったのよ」「泣いているけど、大丈夫、ついてくるから」参加されている他の子ども達を、促したり、一緒に歩いたり、我が子だけでなく、他の子ども達にも、目を向けて、皆で共に、行動することを大切にしているよう。決して無理はさせないことや、最大限に出来るとこまで待つことも大切にしています。「家族だけなら出来ないことも、ツチノコなら出来るんですよ」と嬉しそうに話される。

将軍塚で早いお昼休憩の時は、それまで別々に歩いた家族が一緒になります。色々な子ども達がいる、様々な家族の形があります。それぞれの家族の子どもへの関わり、家族の状況、そして、少しだけ日常生活が垣間見られる。親子遠足みたいなものかなと思っていたが、全く違いました。こういう活動は、毎回参加されている方が多いと、初めて参加すると入りにくい雰囲気があるのですが、それが全くないのです。前から参加しているように、何の隔たりもなく、今、一緒に参加して最後まで行こうという、今、一緒にいる仲間という雰囲気でした。

「誰でもツチノコ野外倶楽部に来たらいい」佐々木さんがよく仰っている。その言葉通り、誰でもウェルカムな雰囲気になっていくのです。その親の思いは子どもに伝わるものです。親が楽しいなら、子どもも楽しい。日常の生活に追われていても、参加してリフレッシュ出来る時間です。

この活動で、子どもの本当の力を親が知る機会となります。きつい坂道で親がバテても、子どもはバテないし、子どもの時の色々な経験が力になります。知っていることは、自信になります。分かっていることは、勇気にかかります。他の子どもとの関わりで、我が子の関わりを考えたり、他の家族から自分の家族のことが学べる機会でもあります。